

★ 令和2年度

板橋富士見幼稚園における自己点検自己評価 S票

(集約 M票・N票・O票・P票・Q票)

板橋富士見幼稚園概要

学校法人安見学園は、私立保育所 富士見愛児園 園長安見七郎氏によって、平成15年3月31日寄付行為により、東京都から認可を受けた学校法人立幼稚園である。

創始者安見七郎氏は、地域の子ども達の教育の場として恒久化するために板橋区宮本町29番1号に設置した。

よって、私立 板橋富士見幼稚園は、平成15年4月1日をもって、学校法人安見学園が運営する幼稚園として初代園長が寄付行為を行い安見七郎氏から、本学園の理念精神を最も理解し当時から園長代理として在勤している次男安見克夫氏に、理事長・第2代目園長に引継ぎ現在に至る。

本幼稚園は、地域の子ども達に質の高い幼児教育を保証するために、文部科学省が示す幼稚園教育要領に準拠し園独自の教育課程を編成した、遊びを中心とした幼児主体の教育を実施している。また、有識者の協力のもとに作り上げた知的発達及び非認知能力の高い人格形成の基礎を培える保育を展開している。その結果、自分で考え工夫し、やり遂げる力と人間としての豊かな心の教育のバランスのとれた高度な幼児教育を探求し続けています。園内のすべては、子ども達の成長のために提供されている自然環境であり、教師と子どもとの共生を軸とし、小学校への円滑な道を拓いていくことを目指している。そのために、園を卒園する際には、本園での体験や経験活動を通して、自信を持って人社会に参加できるようになることを目標としている。

■在籍状況（5月1日現在）

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
在籍数	165名	157名	156名	158名

根拠書類 在籍異動報告書・在籍原簿・出席簿

■ 入園応募者状況

令和2年度募集状況（令和元年11月1日現在）

令和元年度4月からの入園希望者の推移状況と入園確定者数は以下の通りである。

入園選考については、定員まで先着受付を実施し、発達検査（適性）及び運動機能検査入園審査を持って合否判定を行い入園児を確定している。判定保留については、再度2月期面接等を実施し、集団生活及び保育を適当とする確認のできた園児に対して入園を許可している。

尚、11月1日考査当日に不合格となった場合は、補欠申し込み者5名を繰り上げとし、

後日、考査と面接を実施し入園を許可している。

入園考査手続きは令和2年度も同様であるが、前々日から夜通し並ぶ傾向が見られる。

見学者訪問状況	4月－7月期	9月－11月期	12月－3月期
案内書配布状況		120	13
入園応募状況		58+4	
募集人員		58	
入園確定者		62	

根拠書類 入園合格者異動状況票・A票・基本調査票

入園希望者に対し、板橋富士見幼稚園の理念び精神について保育内容の具体的活動を示しながら、個別の入園予定見学者を対象に、入園前に教育方針等の説明を実施している。このために入学志願者の説明見学者と入園案内書配布率は、100%で、入園見学者の入学応募率は98%である。

■ 教職員組織

園長	1	☆	ITオペレーター	1
副園長	1	☆	預かり保育教諭	3 ☆
事務長	1	☆	体育講師	1
主任	1	☆	心理相談・保育指導講師	5
副主任	1	☆	英語講師	1
主任補佐	1	☆	環境保全員	1
3歳児学年主任	1	☆	心理相談員（非常勤）	1 ☆
研究開発主任	1	☆		
教諭	5	☆		

☆ 17（届出済）

教職員総数 28名

根拠書類 教職員異動状況票

本園の教育は、教育理念と教育方針及び精神を受け継ぐ教員組織によって成り立っている。幼稚園教諭免許と保育士資格を持つ一種免許を持つ教員と二種免許を持つ教員によって組織されている。経験年数は、20年以上3名・10年以上の教員が3名・5年から10年目の教員が5名、2年目から5年目までの教員が2名である。

■ 保育室及び運営室配当表

保育室			園長室	1	職員室	1	事務室	1	トイレ	2
3歳児	4歳児	5歳児	給食室	1	保健室	1	相談室	1		
2	2	2	遊戯室	1	図書室	1	集会室	1		

根拠書類 学校基本調査

■ 教育課程外教育（預かり保育）実施状況

開園日及び休日等に係る預かり保育の実施状況

月曜日から金曜日の毎日（午後2時15分から5時15分まで）実施している。

預かり保育担当教諭は、保育士・幼稚園教諭資格者3名が交替で対応している。

年間利用児総数は2186名である。この年度は、中国で発生した新型コロナウイルス感染症が爆発的に広がった影響で、2号認定に制限して実施をした。

根拠書類 私学助成金申請A票

板橋富士見幼稚園の保育コンセプト

資料1

設立母体は、昭和6年に宮内省より天皇陛下の御賜金を賜り東京府板橋区板橋十丁目2372番地に設立された戦時保育所の私立富士見愛児園である。当時は、戦災孤児をはじめ保育に欠ける子どもたちの収容措置施設であった。その後、昭和26年4月富士見愛児園の分園として板橋区清水町に富士見愛児園清水分園として保育施設が増設された。

その後、昭和47年地元の要請により、幼稚園として私立板橋富士見幼稚園と改名し、学校教育の道を歩み始めた。そのため板橋富士見幼稚園は、設立母体である富士見愛児園の建学の精神と保育理念である、園長は、採用時の初任者研修期間匂いて、直接説明し開設している。

また、新学期の準備期間中の一日で、年間指導に関する教育方針を伝え、本園の理念精神を深く説明している。「保護者と共に歩む保育」「人に優しさを与える保育」「子どもの主体を保障する保育」を具体化し、以下の標語を掲げ、ここに集う教員は、「富士見フェミリー」の一員として、自覚しその理念と精神を受け継ぎながら教育を実施している。今年度は、新型コロナウイルスによる予測のつかない事態の中で、当初のカリキュラムの進捗状況を見直し、できる限り幼児の発達を妨げることのないよう配慮した。また、入園及び始業が6月であり、夏休みまで一か月あまりの保育を進めていくために、様々な制約の中、本園の教育理念が逸脱することのないよう共通認識のもと一丸になって取り組んできた。

【幼稚園便覧】【標語】

建学の精神と教育の理念

資料 2

板橋富士見幼稚園は、幼児を保護し最善の利益を保障する保育施設として、教師と保護者が常に一体となって、子どもの発達を助長させていくために保育・教育の向上を図る。

- ・子どもを大事にする保育を目指す。
- ・親を大事にする保育を目指す。
- ・保育者の奉職の精神をもって、保育に専念する。
- ・繊細な心が宿る保育を目指す。

標 語

心 愛 健 美

子どもの育ち

「心」心の美しい子ども・「愛」だれからも愛される子ども
 「健」健康な子ども・「美」明るく天真爛漫な美しい子ども

板橋富士見幼稚園では、子どもの育つ具体的姿を描き、昭和6年創設者安見七郎先生が、標語として残されたものです。この標語に秘められた紀要育理念に基づき、実現に向けた教育目標を定め、その目標の具体的姿から保育のねらいを定めている。本ねらいを基に、平成29年度教育課程が編成されている。各教職員は、この教育課程のねらいの実現に向けて、年間指導計画を作成し、月計画・週日案を立案し、個々の幼児の発達を踏まえた、指導をおこなうことが義務づけられている。

このことについて、学園理事長及び園長から新学期辞令交付とともに、文書音読で園の精神と保育理念について講話【年間指導方針資料】があり、前教職員が取り組むべき具体的な保育方法について周知伝達される。また、毎日始業前に10分間の園長からの朝会が行われ、随時、保育の取り組み方や本園の教育精神について訓示する場が設けられている。朝会で教師は、園長からの指示伝達や、教育の進め方、評価、課題などについて随時講話が行われ、各教員は記録し自己の成長に役立てている。

根拠書類 板橋富士見幼稚園保育内容研究資料集・入園案内・幼稚園サポートブック・入園のしおり

板橋富士見幼稚園の教育目標

資料 3

- 目 標
- ・明るく伸びやかな心の育ちに
 - ・仲良く元気に遊べる子どもに
 - ・あきらめずやり遂げる力と優しい心に
 - ・しっかりとした生活習慣の獲得に

- 目標の具体
- ・自分らか遊びを創れる子どもを育てる。
 - ・様々な事象に触れさせ繊細な心を育てる。

- ・互いを認め合える優しい心を育てる。
- ・一生懸命に取り組める子どもに育てる。
- ・生活に必要な習慣が身につくように育てる。
- ・豊かな感性が身に付くように育てる。

ね ら い

- ・優しく思いやる心が育つように
- ・あきらめずにやり遂げる力が育つように
- ・自信が持てる

板橋富士見幼稚園の教職員教育（初任者研修）

資料 4

着任教諭に対する研修については、園長から直接、一週間の図上教育が実施されている。内容は、教育の理念と精神及び保育の具体的考え方と指導方法について教示する。また、副園長及び主任等を通じ、保育内容及び園の教育姿勢と、経営に関する内容を実地で指導するなど、板橋富士見幼稚園の理念・精神が、教育に円滑に活かされていくよう研修している。また、該当年度の学期の始めの始業開始日初日に、園長から新年度の教育方針と共に、園の理念や精神について、全教職員に講話がなされている。そのほか、毎日【月曜日から金曜日】保育開始前園長より朝会が行われ、保育の考え方・幼児教育の理論と実践・本園の教育理念や保育者としての精神などを教示すると共に、教職員には、板橋富士見幼稚園保育内容研究資料（P P 1 - 1 5 0 項目）の指導の考え方や目標に向けての具体が記述された教育マニュアルが配布されている。

根拠書類 板橋富士見幼稚園保育内容研究資料集・入園案内・幼稚園サポートブック・入園のしおり

教育課程の実現状況

教育課程の実現状況については、教育課程に示すねらいと内容について、学期毎に総括会議を実施、それぞれのクラス担任から、教育課程のねらいと内容の実現状況を4段階評価でチェックし、学期内に実現できなかった項目については、次の学期内で実現するよう表記するなど課題として捉え、実現された項目については、項目欄を塗りつぶし、そのほか、半分程度、或いは4分の一程度の場合は、その旨の塗りつぶしの表記を持って実現状況を細かく評定している。結果、現在活用している教育課程の表記は、具体的に記述されているため、教職員会では、実践に生かしやすいとの評価があり、指導計画作成及び、中期・短期計画の立案に充分機能しているといえる。実現状況については、最終学期の総括会議において1年間の保育状況をチェックリストで確認し、ほぼ9割の内容が達成されているとしている。

なお、平成28年改訂された幼稚園教育要領の「資質と能力」の育成について、板橋富士見幼稚園教育課程においても、同時に改訂し、「幼児の終わりまでに育ててほしい10

の姿」の保育方法について、平成30年度4月当初に全教員に対して周知した。コロナ禍のため今年度は園長が講師となり、園内研修を実施し、その取り組みを継続しているところである。

根拠書類 (学期総括会議個別資料及び会議録G--20)・(個人観察記録「青票」G--21)

第一集約報告書

保育内容報告書

A 票

保育内容は、本園の教育課程に定めているねらいを達成させるために、各学年で年間指導計画を策定し、ねらいの実現に向けて、月案・週日案が起案され保育されている。

但し今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月から2か月休園措置が取られたため、それぞれの教師は、ねらいの実現のために環境を整備し、一人一人の個の育ちとクラスでの取り組みに対し指導と援助のあり方を見直すこととなった。そのため当初の計画案では、保育していくことが難しく保育の進度に苦慮した。

週日案兼保育日誌及び定点保育記録から、

①「教師の働きかけ・行動」②「教師の意図・ねらい」③「読み解き・結果」
④子どもの動き・行動」⑤「活動内容」である環境の構成及び再構成を行い、PDCA サイクルに乗って省察を実施している。

その結果、保育内容は、当初の計画を繰り返し下げながら、幼児の発達や園生活に対する不安感を取り除き教師との信頼関係に努めた。その結果、普段6月期に見られない、登園拒否児や泣くこどもが多く見られ、保育に戸惑いはあるものの、ほぼ適切に保育されてきたされている。

しかし、子どもの実態に即した取り組みが、やや達成でき得ていない部分もあり、今後の課題として意識し記録されていることが確認できている。

また、年3回の学期総括会議における各学期のねらいと内容のチェックリストに置いて実現状況は、ほとんどの教員がほぼ達成されていることを確認できている。

但し、一部の内容に係る活動は、コロナ禍や天候・気候の変化及びクラスの発達の变化などから、中止・遅滞・延期したりと実現できなかったものもある。

根拠書類 (保育日誌 A-1) (定点保育記録 A-2)

行事報告書

B 票

コロナ禍での行事は、蔓延防止重点措置や、緊急事態宣言の発出などにより開催できない行事や、内容の変更及び、縮小しての開催などが見られた。年間実施される行事の新たな計画立案で、大きく変更されるものもあったが、新たな取り組み方を考案しながら、手さぐりではあったものの指導計画における目的及びねらいについて、定例職員会議及び学期総括会議において省察されている。(行事報告書B票)

なお、各クラスでの取り組みについては、保育日誌（週日案兼保育日誌）の振り返りから概ね達成できていることを確認している。しかし、お誕生日会の取り扱い方については、幼児の発達の違いが大きく、もう少し取り組みに段階的な指導が必要なのではないかと意見もあるなど、全体会やクラス会での持ち方について話し合わせ改善策が取られた。根拠書類（指導計画 B-3）（保育日誌 B-4）

有識者評価報告書

C 票

幼児教育に対して、本園で40年近く園内研修会を担当している（臨床心理士）の指定非常勤講師5名と不定期非常勤講師2名で実施している。園内研修会での有識者の意見及び指導・提言については、毎回改善すべき事項と実践保育に対する教師の関わりについて丁寧な指導助言を受けている。

令和2年度は、コロナ禍のため有識者を招いての園内研修は行われなかった。しかし、園内では、年間2回ほど、園長（大学教員）と指導主任が中心になって、実施をした。

第1回目は、初年度4月期に今年度の教育方針と共に、それぞれの学年での取組について具体的に話し合わせ、指導計画の策定に役立てた。

第2回目は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と指導要録記入」について、指導書を元に解説指導を行った。

根拠書類（園内研修助言報告書 C-5）

園内研修報告書

D 票

令和3年度の園内研修会は、コロナ禍のため実施されなかった。尚、外部有識者の園内研修会は、実施しなかったが、園長と研修指導教諭が中心となって、年間2回園内研修を実施した。内容は上記の通りである。

根拠書類（指導計画 D-6）（保育記録 D-7）（指導者助言 D-8）

保育参観報告書

E 票

コロナ禍のため保育参観は実施しなかった。

根拠書類（指導計画 E-9）（保護者アンケート E-10）

安全点検報告書

F 票

毎年、年度初めと9月期・12月期に実施している。第一回目は、全教職員が園舎内及び園庭の環境構成と遊具の安全使用の有無及び突起物等の安全点検項目に従って点検し報告書を作成している。

目視点検結果としては、ツリーハウスの一部老朽化した木部について改善を実施し、安全が確認されている。他の場所等についても安全点検が行われ、特に問題とする指摘事項は認められなかった。

特記事項として、コロナ禍での安全対策として、保護者に対して年間12報のコロナ関連通知を発信し啓発活動を行った。また、門前より入場を制限し、健康調書の提出を義務付け、アクリル板の設置や親子の検温を実施し消毒を行うなど、感染防止対策を行った。

さらに、保育中全てにおいてマスクの着用を義務付け、保護者が園内に入園する際は、検温・消毒・マスクの交換を行った。よってコロナの感染者の発症は最小限に留めることができた。

根拠書類 備品管理台帳(安全点検確認票 F-11) (消防計画書 F-12) (自衛消防訓練計画・報告書 F-13)

学期総括会議報告書

G 票

コロナ禍での学期総括会議は通常通り学期毎に3日間実施された。(内2日が個人総括・1日が行事総括)である。令和2年度の総括で、特別支援を必要とする園児に対する保育の難しさが指摘された。また、課題のある幼児についても年々増加傾向にあり、その指導のあり方について問題意識が共有された。各学期総括会議では、課題児に対する保育方法が検討された。本年度は、6月に入園式・進級始業式となり、わずか一か月で夏休みとなったため一学期の育ちの達成についてやや遅れがあり、それを考慮し二学期三学期の保育計画を再構成し、達成に努めた。

根拠書類 (教育課程編成会議資料 G-14) (個人観察記録「青票」資料 G-15)

教育研修報告書

H 票

教職員の生命と生活保障のため、研修活動を全て停止した。

よって、令和2年度は、外研修は実施していない。

根拠書類 (研修会参加報告書 H-1)

危機管理対策報告書

I 票

AED 使用の救命救急訓練及び侵入者撃退訓練、地震火災災害訓練等の安全対策訓練は、全て園内で実施済である。

AED 作動点検・消火器設置作動確認・110番通報装置の定期検査等も全て実施済である。根拠書類（危機管理マニュアル I-1）（訓練計画書 I-2）（訓練報告書 I-3）

評議員会報告書

J 票

記載省略

根拠書類（学期総括自己点検報告書 J-4）

地域連携活動報告書

K 票

近隣との地域連携は、コロナ禍のため、全て中止となった。

◎園長は板橋区教育委員会の要請により、板橋第八小学校の学校運営協議会（ISC）委員会も出席を見合わせた。

根拠書類（図書管理用 K-27）（サカホール 指導計画・記録 K-28）（クリスマス会指導計画書・評価票 K-29）（インターネット K-33）

保護者連携報告書

L 票

板橋富士見幼稚園では、保護者の会として「母の会」が組織されている。各クラスから2名の代表者によって組織され、園の教育推進に支援頂いている。園と保護者とを繋ぐ情報誌として、クラス便り、園だより、連絡帳などの活用がある。

各誌、毎月はじめに、今月の取り組みやクラスでの出来事などが掲載されている。また、園便りは、園長が毎月の終わりに、その月の出来事や、次の月の行事予定、補助金等のお知らせや、子育てに必要な情報など、園生活全般に渡る情報を発信している。

また、一人一人のその月の成長記録として連絡帳がある。この連絡帳を介して、保護者とクラス担任との意思疎通を図り、教師の指導や子どもの生活する様子等を伝えることで信頼関係を深め合うことができている。その他、個人面談において、園に対する要望や家庭でのお子様の様子などを話し合い保育に生かせるようにしている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染死亡者や、重傷者の増加に伴い、保護者の不安も大きく、家庭と園を繋ぐ意味から、4月から保育情報や保育のネット配信等を実施し、園と家庭が繋がっている事を実感してもらい、安心して過ごせるようさばサポートを行った。また、年間12回（コロナ対策13報）を配信し、園のコロナ対策への理解と協力をお願いしたところ、特に園への取組に対して、指摘や意見及び、体制に対する不安などの通報や感染者への誹謗中傷もなかった。

根拠書類（クラスだより L-30）（連絡帳 L-31）（園だより L-3）（母の会だより・会議録 L-34）

第2集約評価報告書

保育内容総括評価報告書

N 票

- ◆ 令和2年度保育総括を行った結果、安全に対する大きな事故の発生はない。
- ◆ 行事については、コロナ禍のため、全面的に中止したが、運動会は園庭で子どもだけの運動会とし、保護者には運動会の収録動画をネット配信した。また、ダウンロードできない方には、DVDを有償配布した。制限することはあるものの、教職員が担当別指導計画案を立案し、教育課程に遅れが生じないよう取り組んだ。
- ◆ 春・秋の遠足は中止となった。
- ◆ 外部講師による園内研修は全て中止した。内部講師（園長）が担当し、年間2回実施した。その他本園の教育センター長によるランチセッションは中止された。
- ◆ 保護者間の交流については、コロナ禍のため行われなかった。
- ◆ 運動会は、園庭で、子どもだけの運動会を開催し、目的はほぼ達成できた。
- ◆ 新春餅つき大会では、コロナ禍のため中止した
- ◆ 火曜日に体操日が設定されている。運動会の種目と運動する楽しさを幼児が学びとってもらえるよう、コロナ禍での安全な体操遊びのカリキュラムを策定し、楽しい運動遊びの指導を行うことができた。特に問題となる指摘はない。
- ◆ 木曜日に設定されている英語の先生と遊ぼうでは、異文化交流の機会として、英語を使った手遊びや、出身国の文化について子ども達と英語で遊ぶ一日を設けている。子ども達は、英語の先生に積極的に話しかけるなど、楽しいひと時を過ごしている。
- ◆ その他 夏季保育のプールでの水遊びや、作って食べよう（中止）など、夏の夏季保育にふさわしい遊びを楽しみ、体力の向上や、爽快感、達成感、満足感などを培うことができた。

【この年は、自由登園日が多く、感染不安から欠席が目だった。中には、年間欠席する幼児もいた。】

(集約 A票・C票・D票・E票・G票)

行事運営総括評価報告書

O 票

新型コロナ感染拡大に伴い年間実施される行事の計画立案でのねらいの実現について、定例会や学期総括会議において、指導計画を見直しながら保育を取り戻し、何とか教育目標を達成出来たのではないかと報告している。

コロナ禍のため、中止したり、縮小したり、行事内容を見直すなどの取組がなされ、全ての行事に置いて、教員のアイディアの工夫や感染防止対策等が盛り込まれた行事計画がなされたことで、目的を達成する事が出来た。(集約 B票)

安全管理総括評価報告書

P 票

「板橋富士見安全管理マニュアル」に従って、研修を実施している。おおむね達成している。今後どのような事態が発生しても、瞬時に初動体制が取れるよう訓練を重ねて置く必要がある。

今までの図上訓練および実地訓練などを重ね、幼児の生命と安全をしっかりと確保し、事故・事件のない管理体制が整えられているが、随時見直し対応していくことが必要である。特に、直下型の大地震の発生に対する体制や、不審者侵入における阻止体制などは、しっかりと取り組んでいく課題であると認識している。

また、近年疾病治療等のアレルギー対応については、教職員は指定研修を受け、エピペンの使用訓練を受けており対応できるようになっている。

生命に関わる疾病の発生に伴う、初動体制はしっかりとれており、救急隊員との連携も迅速につなぎ、生命の危険を回避することができるよう整備してある。

園には、非常用酸素吸入器・血中酸素飽和測定器・AED 等の非常時の救命機器が用意されている。また、発生に対して、発生時から客観的に(バイタル測定者) 様態・対応・測定数値などを記録し、迅速な救急体制が整っている。

(集約F票・I票)

評議員会報告

Q 票

省 略

(集約K票)

教育研修総括評価報告書

T 票

令和2年度は、外部研修は一切行わなかった。

(集約H票)

社会貢献活動総括報告書

M 票

1.子育て支援相談

令和2年度子育て相談は、年間2件程の利用があった。

在園児・卒園児・近隣で子育てしている保護者から子どもの発達相談が多く、大学教授で幼児教育専門の知識を持っている園長が対応した。分野が異なる場合は臨床心理士等の非常勤講師2名にお願いすることもある。相談費用は、すべて無料である。相談内容については守秘義務があることから一斉公表することはできない。

2.出版物

板橋富士見幼稚園では、園での保育内容について、出版物やホームページを通して、

広く公開している。

日本教育新聞・学研・鈴木出版・チャイルド本社・ひかりのくになどに直接的・間接的に本園の教育の取り組みについて掲出している。現在、株式会社メイトの指導計画の執筆及び監修を行い本園の指導計画を公開している。

3. 講義・講演活動

園長は全国の幼児教育に関する講演活動をはじめ、平成28年度は文部科学省国立教育政策研究所の委託研究を受けるなど、全教員は研究開発事業に参加しその成果を公表している。今年度は、幼少年教育研究所紀要（第2号）に園の「水族館作り」の取組を投稿している。

根拠書類（執筆活動・学会発表・講演活動等M-35）

メンタルヘルス総括評価報告書

R 票

新型コロナの発生に伴い、教職員のメンタルヘルスの対策を強化した。

コロナ禍による教員が感染に対する不安や通勤時の感染防止等に配慮し、園児のマスク着用及び、消毒・アクリル板設置、保護者家族全員の健康チェック等をこの2年間実施し、教員のメンタルヘルスの良好な状態を維持してきた。当然、退勤時間の短縮を行い、ラッシュアワーに重ならないよう退勤時間を早め、昨年度から引き続き、コロナ対応危険手当の支給を継続している。そのため、不安はあるものの教員の健康に関する自覚的指摘はなされていない。

理事会報告

U 票

令和2（2020）年度の報告書は、令和3年4月30日に完成し、6月に予定される理事会に報告される。

また、ホームページにて公開中であり、学校関係者評価委員会（仮称）の認証については、現在準備を進めており、令和4年9月に開催する予定である。

本園の理事構成は、6名であり、法人登記されている理事は、

☆理事長 東京成徳短期大学幼児教育教授学科長 安見克夫

☆県立医師 近藤副次

☆大学教授（幼児教育）大澤洋美

☆大学教授（幼児教育特別支援）金城悟

☆幼稚園長 檜葉英和

☆損保会社員 田上一郎

省 略

外部評価

東京都私学部監査局監査報告

令和2（2020）年度から令和3【2021】年度への課題

令和2年度の自己点検総合評価は、次のとおりである。

1. 教育課程の実現状況

毎年、学期総括において、在園児全員の教育に対する達成域について、一人一人「個人発達記録簿」を基に検討され、著しく成長を遂げた姿について報告がなされている。その結果、コロナ禍での保育リスクとして年間すべてについて適格に保育が行われているものの、多少の人間関係の希薄が見られたが、保育そのものの一人一人の活動に対しては、おおむね達成されているものと評価している。

しかし、今後、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への到達域に達する幼児の割合については詳しく検証していく必要があると結論づけられた。

また、小学校接続期についての幼小との交流の強化と、双方の保育授業参観などについては、今後の課題するところである。

2. 事業運営状況

本園は、一人一人の発達を保証する意味から、教育体制は、3歳児1クラス3名の正規教員が担当している。合わせて待機教員3名が全クラスを担当している。

入園時期当初は、4歳児に保育補助として入り、きめ細やかな保育をおこなっているが、本年度は、コロナによる緊急事態宣言発出に伴い6月から保育が開始されたことにより、今年は配当がなかった。3歳児クラスは、6月入園時から1ヶ月間毎日6名の教員により、一人一人のカンファレンスを行い、課題のある幼児に対しては指導を共有し改善が見られるまで支援した。また、年間教育日数の減少に伴い、教育課程の実現に遅れが生じないよう随時指導計画を見直した。幼稚園教育からの小学校への接続に支障のないよう対応し、学期総括会議において、その実現状況がおおむね実現していることが報告された。

3. 環境教育整備

コロナ禍における安全対策強化のため、教育関係費が大きく支出され、本来の保育に必要な経費を圧迫した。また、衛生管理に伴う機材・薬剤等の調達が高騰により、購入ができないという状況が生じた。

迅速な公的補助が求められる状況であったが、行政の対応の遅れが見られた。コロナ禍以前の状況に戻るためには、公的資金の導入が不可欠とされる。

◎保育室内環境は、すべての保育室にオゾン発生器を設置し、保育後から翌朝まで、保育室を殺菌し、子ども達が使用する素材や機材を毎日消毒し安全に努めた。

また、屋外についても、保育終了後、全て消毒を行い安全な環境を保持している。

◎保育室内の換気等については、冷暖房が設置され、法的に定められた環境に適合している。

そのため、定期的目視点検検査を学期のはじめに行い、安全点検を行っている。

屋外環境は自然が多く、樹齢60年を超える桜の樹木の老朽状態については、専門家の樹木診断を仰いだ上で今年度大幅に伐採を完了し、安全を確認している。その他、動植物や植栽物についても、毎日健康管理し、子ども達にとって魅力ある安全で衛生的な「教材」を提供できるよう務めている。

4.在籍数の推移

この10年間、定員140名に対して、156名前後で推移してきている。

コロナ禍での入園に関する情報提供の在り方について、今後検討が必要である。

5.コロナ禍に対応するために、休園中の保育としてネット配信を行うなど、ホームページの活用が急激に増えたことによる経費が増加した。

6. コロナ感染症が拡大していく中で、今後の保育のあり方を検討していく必要がある。

以上、板橋伏見幼稚園 令和2年度自己点検評価報告書

本自己点検報告書は、板橋富士見幼稚園教職員会の議を経て作成されたものである。